

平成22年第3回大仙市議会定例会

市 政 報 告

平成22年8月31日
大仙市長 栗林次美

本日、平成22年第3回大仙市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

今次定例会でご審議をお願いいたします案件は、専決処分報告1件、人事案4件、条例案7件、単行案8件、補正予算案8件、決算認定3件の合計31件のほか、会期中に準備が整い次第、8月の豪雨による被害の復旧に係る補正予算案を追加提案する予定であります。

各案件につきまして、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

それでは、この場をお借りいたしまして、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況をご報告させていただきたいと存じます。

はじめに、一連の集中豪雨により発生した災害についてご報告いたします。

7月29日夕方から30日昼にかけて発生した局地的な集中豪雨により、協和地域の峰吉川地区において、2時間に93mmという非常に強い雨が観測され、西仙北地域と協和地域で、住家・非住家を合わせ46棟の床下浸水が発生しております。

この集中豪雨により、土木関係では、市道の法面崩落や路肩決壊及び河川の河岸決壊など、西仙北地域で市道10路線、河川7カ所、協和地域で市道4路線の被害が発生したほか、農林水産関係では、西仙北地域と協和地域で101haの水田が冠水し、ため池決壊や水田畦畔崩落等は西仙北地域で45カ所、協和地域で16カ所となっております。また、林道等の路肩決壊や法面崩落等が西仙北地域2路線11カ所、中仙地域1路線2カ所、協和地域10路線13カ所、西仙北地域の土川地区で牛舎の浸水が4棟、協和地域の畜養施設でイワナ約8万3千尾が被害を受けるなど大きな災害となっております。

また、保健体育施設では、協和地域で1カ所の法面崩落被害が発生しております。

被災箇所につきましては、予備費による応急処置及び専決処分を行い保安設備等による安全策を講じておりますが、大規模な被害については、国の災害査定を踏まえ、12月定例会で予算の補正をお願いしたいと考えております。

次に、8月14日午前からの局地的な集中豪雨により、西仙北地域土川地区で住家の床上浸水1件、床下浸水20件、土砂崩れ24カ所、道路冠水31カ所等の被害が発生しております。

農林関係では、大曲地域、神岡地域、西仙北地域、協和地域及び南外地域の5地域17カ所において、水田464.42haが冠水又は土砂が流入し、ため池の決壊や水田畦畔の崩壊等で大曲地域11カ所、神岡地域5カ所、西仙北地域89カ所、中仙地域27カ所、協和地域25カ所、南外地域3カ所と大きな被害となっております。また、林業施設では、法面崩落や路肩欠損が中仙地域1路線1カ所、協和地域5路線7カ所、南外地域1路線1カ所の被害が発生しております。

さらに、8月17日午後からの局地的な集中豪雨により、西仙北地域と協和地域で大雨となり、一連の豪雨の影響によりゆるんだ地盤が地すべりし、峰吉川地区で住家1軒が全壊したほか、市道を中心に土砂崩れが3カ所発生しております。

この峰吉川地区の全壊被害を受けた付近の急傾斜地については、県単独事業の砂防工事により速やかに崩落防止工事が実施される予定であります。

今回の災害につきましては、幸いにも人的被害はありませんでしたが、山間部や水路の未整備区域の被害が甚大であり、市といたしましても早急な復旧と農家の負担軽減を図る必要があると判断し、雨量が1時間当たり20mm以上又は1日当たり80mm以上の豪雨による災害については、農業災害の復旧に係る補助率を従来の50%から75%に引き上げることとしたところであります。

なお、今後の台風やゲリラ豪雨などに対する防災体制のさらなる強化を図ってまいります。

次に、総務部関係についてであります。

職員採用試験につきましては、一般行政事務と保健師、一級建築士、建築・土木の技術系職員合わせて20名の採用予定に対し、229人の受験申し込みがあり、9月5日に大曲交流センターを会場として一次試験を実施いたします。

また、大曲仙北広域市町村圏組合消防職員の採用試験につきましては、上級消防・初級消防及び初級救命を合わせ10名の採用予定に対し、118人の受験申し込みがありました。

防災対策につきましては、10月18日に予定されている秋田県総合防災訓練について、秋田県初の試みとして、大曲日の出町では、数十人の外国人の方々の協力を得て「要援護者のための避難所開設運営訓練」を、JR大曲駅東口ではテロ対処関連として「化学災害対応訓練」を予定しております。また、主会場となる河川敷公園においては、消防、警察、自衛隊、各種関係機関・団体による地上と空中から

の立体的な防災訓練が計画されております。市民の皆様にも積極的に参加していただき、地域の防災力の向上を図りたいと考えております。

次に、企画部関係についてであります。

仙北組合総合病院の改築に係る市街地再開発事業の進捗状況につきましては、5月13日の準備組合設立以降、理事会が3回、臨時総会が2回開催され、処務規程や会計規程、業務委託等規程などの策定、事業費勘定分の収支予算の作成及び都市計画決定後の再開発業務や設計業務の業者選定の方法について協議し、承認されております。今後、事業主体であります大曲通町市街地再開発準備組合が事業区域や施設配置計画を示し、地権者の皆様との合意を図りながら権利変換計画などを作成してまいります。今後、事業推進にあたりましては、市議会の皆様にご報告しながら作業を進めてまいりたいと考えております。

また、市街地再開発事業と一体的に進めている「中心市街地活性化基本計画」の策定につきましては、9月末の認定申請に向け、現在、内閣府及び国の関係省庁と協議を進めております。

非核平和都市宣言事業につきましては、7月27日から29日まで、市内の中学生8人を非核平和レポーターとして広島市に派遣し、現地で核兵器の恐ろしさと平和の尊さについて学んでいただいたところであります。その成果を9月22日に、被爆地広島から被爆体験者を招いて大曲市民会館で開催する「市民平和の集い」において発表していただく予定となっております。

小規模集落コミュニティ対策事業につきましては、「集落支援員」を試験導入することとし、西仙北、協和、南外の3地域にそれぞれ1名を配置したところであります。なお、集落支援員は7月から9月までを研修期間として、県の研修等を受講し専門的な知識や集落支援の手法を習得するほか、導入集落での事前打ち合わせ等を行い、10月から本格的に活動をしていただくこととしております。

地域情報化の推進につきましては、市内全域へのインターネット環境の構築と地上デジタルテレビ放送の難視聴地域解消を目的とした光ケーブルの敷設工事に着手しておりますが、進捗率は約20%となっております。

なお、光ケーブルの活用につきましては、地域の医療、福祉、防災など多方面にわたって期待できることから、市民並びに地域情報化推進委員の方々のご意見も伺いながら検討してまいりたいと考えております。

また、携帯電話の不感地域解消事業については、西仙北地域の土川鬼頭地区と大沢郷立倉・上戸川地区及び南外地域の十二ヶ沢地区の移動通信用鉄塔施設整備事業が完了したことから、今次定例会に関連条例案を上程しております。

国際交流につきましては、7月と8月に3泊4日の日程で韓国青少年北ソウル連盟から小・中学生、引率合わせて40人を受け入れ、学校交流やホームステイなどを通じ日本文化を紹介しております。

友好交流都市である韓国唐津郡との交流につきましては、8月19日から23日まで4泊5日の日程で、中学生8人を派遣し、地元中学生宅へのホームステイなどを通して異文化に対する理解を深めております。

なお、唐津郡では7月1日から郡守が交代しており、本市へ就任式のご案内があったものの日程が合わず欠席したところですが、その後も訪韓のご案内をいただいていることから、10月頃には唐津郡を訪問し郡守就任のお祝いを申し上げるとともに、来年度に実施予定のバドミントンによるスポーツ交流などの新たな分野の友好交流について協議しながら、さらなる信頼関係を構築したいと考えております。

次に、市民生活部関係についてであります。

交通安全対策につきましては、7月までに市内で3件の死亡事故が発生したことから、交差点進入時の安全確認などを緊急に呼びかけたほか、8月1日から10日までの「夏の交通安全運動」期間中、交通指導隊、交通安全母の会など、関係機関、団体による交通安全車両パレードや街頭での指導・啓発活動を実施しております。

その後、8月16日に大仙市として4件目の死亡事故が発生したことを受け、県内に高齢者交通死亡事故多発警報が発令され、8月19日に大仙警察署主催による交通事故防止パトロールが実施されております。

なお、高齢者等の歩行者の事故防止を目的に導入した歩行環境シミュレータにつきましては、本庁市民ホールに設置し広く市民から体験していただいたほか、大曲地域の公民館等をはじめ、市内各総合支所に順次設置し、交通安全意識の向上に努めているところであります。

第3回目となる安全・安心まちづくり推進大会につきましては、7月8日、大曲市民会館において、約400人の出席をいただき、交通、防犯、防災、青少年健全育成活動に尽力された10名の方々を表彰したほか、自衛隊秋田駐屯地司令の蛭川

利幸氏による基調講演を行い、盛会裡に終了しております。

消防関係につきましては、7月17日に開催された秋田県消防協会大仙市仙北市美郷町支部消防訓練大会において、規律訓練の部で大曲支団が優勝したほか、小型ポンプ操法の部で太田支団が第4位に入賞しております。

旅券（パスポート）発給事務につきましては、県からの権限移譲により本年10月1日から、旅券の発給申請と交付の窓口を本庁市民課に開設いたします。これまでは、市役所で戸籍謄本などを受け取ってから、県庁や仙北地域振興局の窓口で発給申請をしていただいておりますが、今後は申請に必要な戸籍関係書類の取得と旅券申請が本庁市民課で同時に出来るワンストップサービスが実現することになります。

なお、県とのオンライン接続の関係で、申請は午後5時までとなるものの、交付については、市民課窓口を午後7時まで時間延長しておりますので、利便性が向上するものと考えております。

環境学習事業につきましては、夏休み期間中に市内26小学校の4年生664人が「子どもエコチャレンジ」に、市内12中学校の生徒と公募による家庭を合わせ約2,250世帯が「環境家族宣言」に取り組んでおります。

親子環境学習につきましては、7月29日には姫神公園において46人、8月5日には中仙地域の斉内川において41人が参加し、昆虫や魚の生態など自然環境について学習したところであります。

大仙美郷クリーンセンターに搬入された平成21年度の本市のごみ量につきましては、家庭系が1万9,185t、事業系が1万476t、合計2万9,661tと前年度比1,581tの減となり、市民1人1日当たりのごみ量は、前年度比5.1%減の890gとなっております。

また、大仙美郷環境事業組合が平成21年度から進めている「マテリアルリサイクル推進施設整備事業」につきましては、旧ごみ焼却施設解体工事が7月23日に完成し、跡地へのストックヤード建設工事に係る実施設計が発注済となっております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

大花都市再生住宅内のNPO法人大仙親と子の総合センターが運営する「まるこのひろば」につきましては、昨年8月1日の開設から1年間の利用実績が、子育て

支援施設での登録者数474人、延べ利用者数1万18人、高齢者生活相談所は登録者数201人、延べ利用者数2,484人であり、当初見込みに比べ大幅に利用者が多い状況となっております。これは、未就園児とその親が気軽にかつ自由に訪れ交流し、子育てに限らず様々な情報交換ができる機会の提供や高齢者にとって介護予防や生きがい活動を通じ、地域で孤立せずに社会生活を営める場の創出に努めたことが利用者増につながったものと思われまます。本事業の取り組みについては、利用者からも好評を得ており、今後も支援してまいりたいと考えております。

児童福祉関係につきましては、保育ニーズの増大に対応するため、社会福祉法人大仙ファミリーサポートが、日の出ベビー保育園園舎の増改築を行うこととしており、県の保育所整備等特別対策事業費補助制度を活用した財政支援を行うべく、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

また、本年4月から開設準備を進めておりました「ファミリー・サポート・センター事業」につきましては、育児の援助を受けたい「ファミリー会員」と育児の支援を行いたい「サポート会員」が相互援助を行うものであり、6月以降、サポート会員33人が登録され、事前講習会を経て、8月1日から本格的に支援活動を展開しております。また、ファミリー会員としての登録者は35人となっておりますが、8月27日現在10件の利用件数となっておりますが、今後も事業PRを行い、双方の会員登録の増加に努めたいと考えております。

障がい者福祉につきましては、社会福祉法人「あけとおり会」が旧かみおか保育園跡地に障がい者支援施設を建設するため、6月4日から着手した旧かみおか保育園の解体工事がすでに完了しており、今後は、土地の貸借契約を締結した後、同法人が本体工事の建設に着手する予定となっております。

自殺予防対策につきましては、秋田県の自殺率が平成7年から連続して全国1位という不名誉な記録が続いておりますが、去る7月16日、「悩みを抱える人々の孤立を防ぎ、苦悩する人を優しく包み、ともに支え合う地域社会を形成する」ことを目的に「秋田ふきのとう県民運動実行委員会」が設立されたところであり、県医師会や秋田大学、また福祉団体や一般企業など79団体のほか、当市を含め県内12市町村が加入しております。

市といたしましては、現在「大仙市自殺予防ネットワーク推進協議会」を中心に自殺予防キャンペーンや各種研修会などを実施しておりますが、今後は「秋田ふきのとう県民運動実行委員会」との連携のもと、自殺予防の普及、啓発に重点的に取

り組み、自殺率低下に有効な手立てを講じてまいりたいと考えております。

次に、農林商工部関係についてであります。

稲作につきましては、7月の気温が高く推移したことから、出穂期は平年より1日早い8月3日となりましたが、一方で日照時間が少なく推移したことから、穂数は1㎡当たり412本と平年比88%となっております。

野菜につきましては、高温、日照不足、8月上旬の干ばつ及び集中豪雨の影響により、アスパラガス、えだ豆をはじめ全般的に樹勢が弱まり、収量は平年より少なめで商品化率も低下しております。

「大仙市都市農村交流推進協議会」につきましては、農村地域で行う農作業体験や民泊などの、いわゆるグリーン・ツーリズムを推進することを目的に、42人の会員により6月24日に設立されたところであります。今後の活動としては、情報交換や研修を通じて会員相互の連携を深め、都市と農村の交流を推進してまいります。

新たな農業振興計画につきましては、学識経験者等からなる策定委員会の第1回目の会合を7月21日に行っており、計画案を12月定例会に提示できるよう作業を進めてまいります。

農地・水・環境保全向上対策につきましては、大仙市、仙北市、美郷町で先進的な取り組みを行っている9組織を紹介するイベント、仙北水土里紀行「みんなで見学、いろんな農地・水」が7月24日に県地域協議会仙北支部の主催で行われ、主会場となったふれあい文化センターでは、活動写真展のほか、共同活動に関する製品の紹介及び実演コーナーに多くの方々の参加をいただいたところであります。

口蹄疫に係る防疫対策につきましては、県をはじめ仙北市や美郷町、JA及び農業共済組合が連携し、管内畜産農家に消毒薬等を無料で配布しております。

なお、宮崎県では8月27日に終息宣言をしておりますが、今後とも防疫対策には万全を期してまいります。

宮崎市佐土原地域の口蹄疫被災農家に対する義援金につきましては、6月27日から7月30日までに市民の皆さんや各関係機関にお願いしたところ、824件、総額約132万3千円の善意が寄せられており、宮崎市佐土原総合支所を通じ被災農家へ届けられる予定となっております。

農業委員会の統合につきましては、平成22年8月6日付けで現委員の任期が満

了となる平成23年7月19日をもって東部及び西部の両農業委員会を廃止し、平成23年7月20日に大仙市一円を区域として、新たに大仙市農業委員会を設置する旨の告示をしておりますが、今次定例会において農業委員会委員の定数等に関する条例案を上程しております。

雇用対策につきましては、仙北地域振興局、大仙市、仙北市、美郷町とハローワーク大曲、地元高校代表が6月24日に圏域の経済4団体に対し、来春の高校卒業予定者の採用枠の拡大について要請をしております。

また、就職に対する認識を深めるための県南地区職場研修事業が、7月23日から8月5日まで、大曲仙北、横手、湯沢の雇用開発協会の主催により開催され、大曲仙北雇用開発協会管内においては、市内25事業所のご協力をいただき、高校3年生を中心に延べ207人が参加しております。

県の雇用対策基金事業の活用状況につきましては、ふるさと雇用再生臨時対策基金事業において、7事業の業務委託により現在30人の方が雇用されております。

また、緊急雇用創出臨時対策基金事業につきましては、市の直接雇用及び業務委託による臨時雇用として、11事業で40人が雇用されておりますが、引き続き雇用の拡大を図るため、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

企業対策につきましては、マル仙融資制度の利用状況が本年に入ってから新規の資金需要が少なくなっており、ある程度経営が持ち直しているものと推察されますが、2社の建設業者が5月に負債により事業を停止しております。また、従業員40人規模の製造業者においても、1社が年内において事業終了する予定であることから、今後も経済の動向を注視し、市内中小企業の経営安定に向けた取り組みを実施してまいりたいと考えております。

また、企業間の受発注促進を目的に、大仙市企業連絡協議会の会員を中心に市のホームページへの企業情報掲載を募集したところ13社から応募があり、データベース化し掲載しております。今後も企業訪問時などの機会に本事業をPRし、市のホームページ掲載への協力を呼びかけてまいります。

企業誘致活動につきましては、新規企業誘致の足がかりとするため、業種・規模・秋田県出身社長などの条件設定のうえ、全国の企業548社に対し事業所の移転や規模拡大の意向を伺うアンケート調査を7月に実施したところであり、集計結果を踏まえながら、今後の企業訪問などに役立ててまいりたいと考えております。

秋田大学との連携協定の柱である「ものづくり振興」への取り組みにつきまして

は、秋田大学産学連携推進機構の協力のもと、大仙市企業連絡協議会事業の分科会を発足したところであり、7月23日の第1回分科会には、会員企業15社17人、秋田大学側からは機構長、担当准教授に出席していただいております。市といたしましても、企業間の技術交流や大学と企業が共同で取り組む研究・開発に向けて、支援をしてまいりたいと考えております。

夏まつりにつきましては、8月7日、8日の両日に「夏まつり大曲」が行われ、神宮寺小学校児童と地元有志で結成したチームとの「ヨサコイ演舞」の競演、「ミス・ミスター大曲の花火コンテスト」や丸子橋橋上での「こども樽みこしコンテスト」などの多彩なイベントに多くの市民が集まり賑わいを見せたところであり、今後も、地域に根ざしたまつりとして、さらに発展するよう期待しております。

また、8月15日には「彩^{さいか}夏せんぼく」、8月16日には「角間川盆踊り」と「ドンパン祭り」、8月17日には「ふるさと西仙祭り」等が行われ、多くの市民の参加をいただき盛会裡に終了したところでもあります。

第84回を迎えた全国花火競技大会につきましては、8月28日に国土交通省や秋田県警、仙北地域振興局、JR東日本、東日本高速道路株式会社、羽後交通株式会社、東北電力株式会社、広域消防本部などの協力のもと盛大に開催されました。当日は、朝から青空が広がり最高気温が31.4度を記録する中、大会史上最高となる約80万人の観覧者数となりました。会場内では、安全確保のため一部入場制限する混雑となりましたが、例年にも増して豪華な花火を堪能していただけたものと思っております。

本大会における交通対策につきましては、土・日曜日の高速料金割引に加え、本年は「大曲の花火」が100年目を迎える記念すべき年であり、来訪者及び交通量の増加が懸念されたことから、警備体制を強化するなど万全な体制で臨んだところであり、各部署との緊密な連携によりスムーズな対応ができたものと認識いたしております。

なお、大会1週間前の8月21日には「大曲の花火100年記念フォーラム」が開催され、「大曲の花火」を支え続けている関係者に対し感謝の意を伝えるとともに、映像で「大曲の花火」の歴史を振り返りながら約600人の市民の皆さんと一緒に100年をお祝いしております。

次に、建設部関係についてであります。

道路整備事業につきましては、平成21年度2月補正において債務負担行為を設定し発注をしておりました地方特定道路整備事業宮林線改良工事は、6月下旬に完了しております。

また、3月補正予算において繰越明許費を設定した地方道路交付金事業黒森山線についても完成を迎え、6月30日に開通式を執り行っております。

同じく繰越明許費を設定した「きめ細かな臨時交付金事業」の道路・橋りょうにつきましては、全72カ所のうち52カ所の工事を発注済みであり、残る20カ所についても発注に向け作業を進めております。

地方道路交付金事業の2路線のうち古四王際飯詰線につきましては、7月中旬に発注済みであり、本年度での事業完了を見込んでおります。

市道中仙4号線につきましては、河川管理者である県との最終協議の結果、^{かんきよ}函渠工から橋りょう工に工法が変更となったため、本年度中の供用開始は見込めない状況であり、7月に橋りょうの設計業務委託を発注し、現在、下部工工事の発注に向け準備を進めているところであります。

なお、市道中仙4号線を含めた地方道路交付金事業については、円滑な事業遂行を図るため、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

地方特定道路整備事業の1路線と市単独道路改良工事34路線につきましては、20路線について発注済みであり、残る15路線についても現在発注に向け準備を進めております。

西仙北インターチェンジのETC専用スマートインターチェンジ整備事業につきましては、東日本高速道路株式会社においてETC機器を現在製作中であり、現地への設置工事は来年3月の予定と伺っております。関連する舗装工、防護柵工、旧料金所撤去及び電気工事などの市発注工事については、9月上旬に発注を予定しております。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業の建物移転につきましては、大曲通町地区、大曲中通町地区及び大花町地区の本年度移転対象物件11戸中2戸の権利者と契約済みであり、現在残る権利者と交渉中であります。

また、借家人補償は32人中29人と契約済みであり、このうち11人が大花都市再生住宅への仮入居を完了しております。

なお、大花都市再生住宅の入居状況につきましては、本年度入居予定戸数15戸のうち、12戸が入居済みであり、現在の入居戸数は33戸となっております。

中通線新設工事につきましては、鋼矢板^{こうやいた}の打ち込み作業を終え、現在、地盤改良工事を行っており、水路2号新設工事については、8月5日に契約を締結し工事に着手しております。そのほかの区画道路新設工事及び街区整地工事については、移転交渉が整い次第発注する予定であります。

大曲駅周辺地区まちづくり交付金事業につきましては、福田西線の道路改良工事の進捗率が約33%となっており、改良工事完了後に舗装工事を発注する予定であります。

また、「しあわせ公園」については、12月1日の供用開始を目指し施設工事を進めておりますが、街区公園として規定するため、今次定例会に関連する条例案を上程しております。なお、継続事業の「地域交流センター」の建築工事については、約91%の進捗率となっております。

仙北ふれあい公園の第2駐車場及び体育館周辺整備工事につきましては、7月上旬に発注済みであります。

大仙市住宅リフォーム支援事業につきましては、8月20日現在の申請件数は298件、補助金交付決定額にして約6,190万円、その全工事費は8億5,700万円となっており、補助金交付決定額が当初予定していた補助額の約70%に達しようとしている現状から、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

公共下水道事業につきましては、補助・単独合わせて3地域の管渠整備11件、延長3.2km分を発注済みであります。

農業集落排水事業につきましては、大曲地域角間川地区において補助・単独合わせて5件の管路工事、延長1.9kmを発注しているほか、処理施設建設工事については、大曲地域角間川地区の土木工事1件と太田地域三本扇地区の建築、機械設備及び電気設備の各工事3件を発注しております。

次に、国・県関係工事についてであります。

国道13号関連の神宮寺バイパス事業につきましては、大坪交差点から北檜岡嶋地区までの2.2km区間について、11月上旬を目途に供用開始する予定と伺っております。

雄物川中流部の河川改修事業につきましては、洪水被害の軽減を目的に築堤等の改修工事を実施しており、西仙北地域の寺館樋門や協和地域の小種樋門など、樋門新設工事に着手していると伺っております。

また、大曲地域の角間川・藤木地区の川港親水公園については、公園内水路の水質浄化を図るため、横手川からの導水施設の整備を進めており、9月下旬には完成する予定と伺っております。

大曲橋架替事業につきましては、現在、橋りょう上部工工事を引き続き実施しており、10月からは上部工の桁架設工事けたかせつに入る予定と伺っております。

橋りょう補修事業につきましては、一般県道土川中仙線長野大橋のほか、南外地域の国道105号平沢大橋に着手したと伺っております。

また、主要地方道湯沢雄物川大曲線角間川工区の道路改良事業につきましては、8月6日に供用開始されております。

次に、水道局関係についてであります。

県が施行する大曲橋架替事業に伴う水道施設整備事業につきましては、本年度予定している管理棟・車庫棟場内整備工事、導・配水管布設工事、取水施設築造工事、取水施設電気設備工事及び取水施設機械設備工事をそれぞれ8月中旬までに発注しております。

仙北地域の戸地谷地区簡易水道施設整備事業につきましては、配水管布設工事を7月下旬に、各戸給水工事を8月下旬に発注しております。

また、西仙北地域の大沢郷地区簡易水道施設整備事業については、配水管布設工事、第2送水ポンプ場施設整備工事及び第2配水場施設整備工事の進捗に伴い、現在274戸に給水しております。

なお、7月検針分から改定となった上水道と簡易水道の新料金につきましては、これまで広報やリーフレットの全戸配布により周知を図ってきたところであり、これまで料金の確認など数件の問い合わせがありましたが、円滑に移行できたものと思っております。

次に、教育委員会関係についてであります。

学校規模適正化の推進につきましては、市内の各地域において、「新しい時代の学校教育だいせんビジョン」の説明会を開催してまいりましたが、神岡、西仙北、南外の3地域については、学校統合による適正化への意識も高いことから、PTAや学校関係者、地域の代表者などの構成による学校規模適正化検討委員会を開催し意見を伺うとともに、各地域協議会からも意見等を伺ったところであります。

その結果、3地域については、特に統合への異論がなかったことから、地域の方々から一定の理解が得られたものと判断し、教育委員会での決定を受け、だいせんビジョンに定める平成24年4月の開校に向けて、作業を進めてまいりたいと考えております。

具体的には、神岡地域の2つの小学校を1校に統合し、校舎は現在の神宮寺小学校を活用したいと考えております。

また、西仙北地域については4小学校を1校に、2中学校を1校にそれぞれ統合し、校舎は、小学校については現刈和野小学校、中学校については現西仙北東中学校を活用したいと考えており、南外地域についても、2つの小学校を1校に統合し、校舎は現在の南檜岡小学校を活用してまいりたいと存じます。

なお、今後議会の常任委員会等でご協議いただき、12月定例会に関連する条例案等を上程したいと考えております。

学校抽出方式で実施された本年度の全国学力調査結果につきましては、7月30日に本県が全国トップレベルであると一斉に報道されましたが、本市児童生徒の結果は、教科に関する調査において県平均と同程度又は上回っており、生活環境・学習環境の調査結果も含め、小・中学校ともに引き続き安定した状況が維持されているとの報告を受けております。これは、本市の子どもたちが望ましい生活の中で学習に取り組んでいる成果であり、家庭や地域の本市教育に対するご支援と教職員の授業改善への努力が結実したものと考えております。

また、7月13日に横堀小学校と仙北中学校において、小・中連携実践研究事業の研究テーマである小学校外国語活動及び外国語指導について、文部科学省の教科調査官から指導を受けております。

大仙市PTA連合会の研修につきましては、立教大学硬式野球部の夏季合宿を機会に同大学の教授・野球部長である前田一男氏の講演会が8月9日、仙北ふれあい文化センターを会場に開催され、中学生も含め多くの方々に聴講いただいております。

また、8月10日には、大仙市の学校教育の基本方針に沿った特色ある取り組みや実践についての教職員研究集会が行われました。その中で、海外派遣事業でオーストラリアに派遣された生徒の発表や「水」をテーマにした中学生サミットなどの発表がされております。

なお、このサミットには、北ソウル青少年交流事業で訪れた韓国の中学生7人の

参加をいただいております、国際交流の面でも成果があったものと考えております。

大曲中学校屋内体育館建設事業につきましては、第1・第2アリーナとも、一階部分の躯体コンクリート養生が終了し、現在、鉄骨建方の作業に入っており、進捗率は約51%となっております。なお、体育器具や舞台幕などの関連備品の購入については、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

学校耐震補強工事につきましては、平成22年度への繰越事業として3月に発注した6件と5月から6月にかけて発注した9件については、工程どおり順調に進んでおります。また、6月定例会で補正予算の議決をいただいたIS値0.3以上0.7未満の12件については、大曲小学校を除く11件が発注済であります。なお、大曲小学校については、工事の量と安全面を考慮し2カ年の継続事業として実施してまいりたいと考えております。

生涯学習の推進につきましては、7月24日に小学生を対象にしたどうぶつ将棋講習会を、翌25日には市民交流将棋大会を開催したほか、来る10月2日、3日の両日には市制施行5周年を記念し大仙囲碁フェスティバルを開催する予定であり、日本棋院理事長の大竹英雄氏をお迎えし講演をいただくこととしております。

また、7月29日から30日まで、小学校5年生を対象とした自然ふれあい塾キャンプを実施したほか、8月15日には大曲市民会館において、市内12中学校の卒業生909人の新成人を祝福いたしております。

大曲駅東口地区に建設中の地域交流センターの名称につきましては、公募して選考した結果「はびねす大仙」に決定し、今次定例会に関連する条例案の上程と施設管理に係る予算の補正をお願いしております。

文化財の保護・整備につきましては、5カ年計画で実施しておりました旧池田氏庭園の洋館修復工事が9割方完成しており、来る11月の特別公開において市民の皆様にお披露目したいと考えております。

神岡西部地区経営体育成基盤整備事業に先駆けて実施している沖田I・II遺跡の発掘調査につきましては、近世を中心とした建物跡や井戸跡が発見され、8月6日に調査を終了しております。

平成23年8月に開催予定の全国高等学校総合体育大会「なぎなた競技」につきましては、7月7日に大仙市実行委員会を設立し、本格的な準備体制に入っております。

第19回全県550歳野球大会につきましては、南外地域4会場において7月

31日から3日間、県内代表の24チームの参加により盛会裡に開催されております。

また、9月18日から開催予定の第32回全県500歳野球大会につきましては、8月6日秋田市文化会館において、これまで最高の172チームでの組み合わせ抽選会を終えており、熱戦が期待されております。

県外の高校、大学野球合宿につきましては、7月30日の太田地域での立教大学を皮切りに、東京学芸大付属高校、神岡地域での横浜商科大学、さらには本年から中仙地域での千葉商科大学と協和地域での学習院大学の夏季合宿がそれぞれ実施されております。

各地域及び総合支所あげての歓迎に対し、いずれの高校・大学からも満足の声をいただいたほか、地域の子どもたちとも有意義な交流が図られたところであります。

次に、財政状況についてであります。

平成21年度決算につきましては、普通会計ベースで歳入総額が493億7,800万円、歳出総額が484億3,900万円となり、歳入歳出の差し引きは9億3,900万円となっております。これから、翌年度に繰り越す財源を除いた実質収支は8億6,900万円の黒字となり、前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は4,300万円の黒字となっております。

また、平成21年度においては、財政調整基金からの取り崩しを行わず6億1,100万円の積み立てを実施したことなどから、実質単年度収支は6億5,600万円の黒字となり、合併後、初めての黒字決算となっております。

財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、90.3%となっており、昨年度と比較して3.6ポイント改善されておりますが、これは、歳入において国の地方財政対策により地方交付税が前年度を上回ったことに加え、歳出における職員の給料削減等により人件費が前年度を下回ったことや物件費を節減したことなどが主な要因であり、今後も経常経費の縮減に努め、比率の改善を図ってまいります。

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき公表が義務づけられている健全化判断比率のうち、実質赤字比率につきましては、平成21年度の普通会計決算が黒字であるため該当しないものとなっており、連結実質赤字比率についても、すべての会計で黒字又はゼロ決算であるため該当がない状況にあります。

実質公債費比率につきましては、19.0%と昨年度より0.1ポイント上昇し

ております。この比率は過去3カ年の平均値であり、単年度の比率においては、前年度を0.4ポイント下回る18.6%となっております。これは、国の地方財政対策により地方交付税が増えたことや、新規の市債発行額を抑制したことから、単年度の比率が改善されたものであります。

また、将来負担比率につきましては、188.0%と昨年度より22.3ポイント下回っており、大きく改善されております。これも実質公債費比率と同様、地方交付税が増えたことや市債残高の減少によるものであり、今後とも、市債発行額の抑制や職員数の適正管理に努めるなど、比率の改善に取り組んでまいります。

また、健全化法第22条に定める公営企業会計に係わる資金不足比率については、いずれの会計においても資金不足が生じていないことから、資金不足比率はゼロとなっております。

本市の財政運営は、依然として交付税等の依存財源に頼っていることから、今後とも自主財源の確保と経常経費の縮減等に努めていくとともに、仙北組合総合病院改築事業などをはじめとした市の重要施策につきましては、着実に実施してまいりたいと考えております。

以上、主要事業の進捗状況につきましてご報告申し上げましたが、今後とも市民並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げまして、招集のあいさつと諸般の報告とさせていただきます。